

（午後1時00分 再開）

○議長（井上勝彦君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番4、15番 田中君。

〔15番（田中博晃君）登壇〕

○15番（田中博晃君）皆さま、こんにちは。お昼終わった後の、少しお腹が大きくなって眠たい時間ではあるんですけども、少しお付き合いのほうをいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、通告に従いまして一般質問のほうをさせていただきます。

まず一つ目、地場産業の活性化及び産業振興センターの整備についてです。現在、日本の地場産業は、特殊性のある一部を除き相当なダメージを受け、明日をも知れない状況です。当市も例にもれず、同じような状態が続いています。しかし、今日まで日本を、そして地域を支えてきたのは地場産業にほかなりません。

例えば、橋本市の繊維業では世代交代が進み、若い経営者や経営者に近い方々が、同業他社とのつながりを密に持ちながら日々頑張っています。このつながりは過去の繊維業ではあまりなく、当市としても若い後継者の頑張りを無駄にしてはならないと考えています。

さきの議会で可決された「橋本市産業振興基本条例」では、産業の振興に関する基本的な事項を定めることにより、その基盤の安定強化及び健全な発展を促進し、もって地域社会の発展と市民生活の向上を図ることを目的としており、産業振興施策の実施にあたっては、国、県、その他公共団体との連携を図る

とともに、市民、事業者、経済団体及び大学等の連携・協力のもと、その実現に努めるものとする、との内容が盛り込まれています。

また、平成16年12月、橋本市・高野口町合併協議会から示された「新市まちづくり計画」の中で、産業振興センター（仮称）の整備が重点施策の一つとして挙げられ、平成20年3月発行の橋本市長期総合計画の中でも、産業振興センターの整備の検討が示されています。また、同じく長期総合計画では、製造業の活性化のために、大学等との連携のもと、新製品・新技術、デザイン開発の育成支援や、展示会参加支援やPR活動の充実が示されています。

新市まちづくり計画や長期総合計画、産業振興基本条例を照らし合わせ、また、長期総合計画も平成25年には見直しの5年目に当たることから、地場産業の今後について深く掘り下げ、当市として将来の方向性を具体的に示す必要があると考えます。

そこで、以下の質問を行います。

1. 長期総合計画で示されている「製造業の活性化のために、大学等との連携のもと、新製品・新技術、デザイン開発力の育成支援や展示館の参加支援やPR活動の充実等」について、当市独自で行ったものを、その成果も踏まえ具体的に教えてください。また、商工会、商工会議所、紀州繊維工業組合、製竿組合等との連携についても具体的に教えてください。

2. 上記のことから、今後の展開をお聞かせください。

3. 産業振興センターの整備の進捗状況、もしくは計画について、具体的にお聞かせく

ださい。

4. 長期総合計画5カ年経過見直しにおける産業振興センターの位置付けについて、具体的にお聞かせください。

二つ目の質問です。イベント情報の携帯メール配信についてです。当市で開催されているイベント情報等を携帯で受け取れる携帯メール配信についてお伺いいたします。

紀の川市や岩出市では、絵本の読み聞かせや市のイベント情報等を携帯メールにて配信し、参加者増につながっているとお聞きしています。現状での広報の場合、その月末のイベントについては訴求力が弱まると考えられ、また、ホームページの場合、市内外を問わず広く知らしめることができる半面、ホームページを見た方にのみ情報が提供され、参加者を増やしたい場合の集客力には疑問符が付くと考えられます。

5番議員より提案のあったフェイスブックにおける情報発信も、和歌山県内では初の試みとしてスタートいたしました。ここで携帯メール配信を併用すれば、さらなるイベントへの参加や行政への参加が期待できると考えます。よって、以下の質問をいたします。

1. 防災メールのシステムを利用すれば、経費をほとんどかけずにイベント等、携帯メールの配信が可能だと考えますが、当局の考えをお聞かせください。

三つ目の質問です。図書館の蔵書充実について。

橋本市図書館の蔵書数は約13万冊で、近隣市と比べても非常に少なく思います。また、雑誌の月間購入数を岩出市図書館と比較した場合、当市では約30冊、岩出市では約160冊と5倍以上の差があります。これは図書館面積や予算規模からいたし方ない部分もありますが、それでも少な過ぎるのではないのでしょうか。図書館は地域文化のバロメーターであり、

図書館の充実をなくして地域の充実はないと考えます。また、さきの予算委員会でも、雑誌等の充実についての要望があり、約2カ月が経過したことから方向性についても検討されているかと考えます。それらを踏まえ、以下の質問を行います。

1. 図書館の蔵書目標数及びそれに向けた購入計画についてお聞かせください。

2. 雑誌を充実させることで利用者増が見込めます。今後、雑誌の購入増はあるのでしょうか。

以上です。壇上からの質問を終わります。よろしくお願いたします。

○議長（井上勝彦君）15番 田中君の質問項目1、地場産業の活性化及び産業振興センターの整備に関する質問に対する答弁を求めます。

経済部長。

〔経済部長（浦 彰伸君）登壇〕

○経済部長（浦 彰伸君）地場産業の活性化及び産業振興センターの整備についてお答えいたします。

最初に、橋本商工会議所、高野口町商工会、紀州繊維工業協同組合等との連携について、具体的な内容を説明いたします。

まず、本市では、橋本市商工会議所、高野口町商工会等と連携して、例年、橋本・伊都地域の企業合同就職面談会を開催しています。昨年度は企業20社に参加いただき、82名の求人に対して面談者は延べ145名となり、このうち8名が採用されています。

また、橋本商工会議所、高野口町商工会、紀州繊維工業協同組合、紀州製竿組合、紀北川上農業協同組合、橋本市観光協会の市内6団体が主催となって平成22年度に開催されました「橋本市産業フェア」では、本市も企画運営に大きくかわり、主催団体と連携を図りながら支援してまいりました。本フェアは

地域産業の活性化を推進するために催されたものであり、各種団体による地場産業の展示と販売、地元の手芸サークルによる作品発表などが行われ、二日間で約550名の来場者がありました。

続いて、紀州繊維工業協同組合との連携についてですが、平成21年度から23年度にかけて、同組合が中小企業庁の補助金を受けて実施した「ジャパンブランド育成支援事業」に、本市も実行委員として事業実施に協力しています。日本で唯一のパイルファブリック産地のブランド化と販路開拓を行うため、本年3月に東京都の原宿で開催された、同組合の単独展示会「高野口パイルファブリック展」の現地スタッフとして、本市職員も同行いたしました。

また、本年度、中小企業庁が公募している、中小企業の研究開発から試作までの取り組みを大学や公設試験研究機関が参画し支援する新たな補助事業の事業者説明会を、本市主催で開催しました。

また、「生産発祥地等」の特産品を持つ22市町村が集結して関西国際空港で開催される物産展「ナンバーワンフェスタ」では、紀州繊維工業協同組合による再織りの実演が行われ、本市職員も現地スタッフとして参加し、地場製品のPRと販売を支援いたしました。

続いて、橋本商工会議所及び高野口町商工会との連携についてですが、平成21年度から23年度の間実施された「ふるさと雇用再生特別基金活用事業」では、橋本市の地域資源を活用した商品「橋本ブランド」の開発と商品化に本市もかわり、補助金手続きなど、県と事業者間の調整的役割を果たしてまいりました。橋本商工会議所の「ひねキングカレー」や高野口町商工会の柿の葉茶「柿葉の恵み」、「柿染めスカーフ」などが商品化され、商品開発後も販売促進とPR活動のため、職

員互助会主催のスポーツ大会などの参加賞として、また、会議等の飲料として全庁的に活用しています。

また、高野口町商工会に管理委託しているITセンターでは、地場製品のアンテナショップとして市内外に商品情報を発信するとともに、市内商工業者を対象としたIT化整備の講習会や個別指導等が実施されています。本市では本センターの施設運営を資金面で支援するとともに、事業実施に伴う補助金手続きなどの事務を積極的に行ってまいりました。

また、橋本市の秋の祭典「まっせ・はしもと」では、橋本市が実行委員会の事務局となり、行政、商工業者、農林業者が一体となって地場製品の販売や展示会を行い、産業振興の動機付けとしています。

また、橋本商工会議所が事務局の「全国ヘラブナ釣り選手権大会」では、関係団体とともに本市も実行委員並びにスタッフとして、予選大会から参加しています。

また、高野口町商工会が事務局の「紀の川カップまつり」においても、本市は実行委員並びにスタッフとして参加し、イベントの企画から運営までのすべてに携わっています。

今後も関係機関や各種団体と情報を共有しながら連携を密にし、本市の財政状況が厳しい折、資金面の支援に限らず、各方面からの支援と協力をしていきたいと考えています。

次に、大学等との連携についてですが、ITビジネスの展開やベンチャー企業の育成、さらには、衰退傾向にある商工業の振興を図ることを目的に、平成14年度から起業化支援事業に取り組んでまいりました。事業開始時から、和歌山大学観光学部の教授に推進委員として助言いただき、事業進行に協力をいただいています。本事業は、情報通信システムの技術躍進により入居者が低迷したことから、本年2月をもって事業を終了いたしました。

一定の事業成果を得ることができました。

また、さきの議会で可決いただきました「橋本市産業振興基本条例」の制定においても、和歌山大学観光学部の教授に検討委員として参画いただき、専門的な立場から助言をいただいています。

本市といたしましては、今後も機会のあるごとに、大学、研究機関等と連携を図り、専門的なご意見を伺いたいと考えております。

次に、産業振興センターの整備の計画についてご説明いたします。

本市の財政状況は、議員の皆さまもご承知のとおり、非常に厳しい状況にあります。この状況に鑑み、現時点で産業振興センターを新たに建設することは非常に困難であると考えています。よって、新たな施設の建設に固守せず、本来の目的である産業の振興に寄与することを大事にとらえ、既存施設の活用を視野に入れた整備を、関係機関、団体のご意見を伺いながら考えてまいりたいと思いますので、ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（井上勝彦君）企画部長。

〔企画部長（森口清隆君）登壇〕

○企画部長（森口清隆君）次に、長期総合計画5カ年計画見直しにおける産業振興センターの位置付けについてお答えをいたします。

本市合併後の平成19年度に策定いたしました橋本市長期総合計画は、平成20年度から29年度の10年間を計画期間とし、新市まちづくり計画の趣旨を尊重しながら、本市の将来像とその実現に向けたまちづくりの基本目標、また具体的な方向性を定めたものであり、本年度を中間年度として、平成25年度より後期5年間の計画に入ります。

このため、本年度中に計画を見直し、後期基本計画を策定すべく、現在そのための諸準備を進めているところであります。

長期総合計画において整備を検討することとされています（仮称）産業振興センターにつきましては、先ほど経済部長の答弁を踏まえた上で調整を図りつつ、橋本市長期総合計画審議会の中で協議をいただき、後期基本計画に反映してまいりたいと考えています。

○議長（井上勝彦君）15番 田中君、再質問ありますか。

15番 田中君。

○15番（田中博晃君）答弁ありがとうございます。

経済部長のお話を伺いまして、黒子という立場ではあるにせよ、相当数の、市としても地場産業、地域産業に協力、尽力されているということが大変よくわかりました。ありがとうございます。そこで、少し再質問のほう、させていただきます。

まず、一つ目の、PRの観点から少しお話をお伺いしたいと思います。例えば、柿についてはラジオCMであったり、また、さおについては、企業誘致の際に、企業誘致が決まったときにお渡しすることがあると聞いております。例えば、繊維製品等地場産品をイベント等のノベルティーとして使用したことがあるのかどうか、また、今後使用する考えがあるのかをお伺いしたいです。これは繊維製品だけではないんですけれども、地場産業全般にわたってになりますけれども、よろしくお願いいたします。

○議長（井上勝彦君）経済部長。

○経済部長（浦 彰伸君）ただ今のおただしでございます。地場産品、特に繊維関係の商品をノベルティーとして配布した実績、あるいは今後の計画ということでございますけれども、議員、確かに今おっしゃられたとおり、地場産品をPRの方法としてお配りするとか、出していくことについては、かなり経済的なのとか、配布するその商品の効果と

というのが大きいものがあるかというふうには感じてございます。ただし、今までに実績という形で聞かれましたら、各種イベントで無料配布する機会等はあまりございませんでして、イベントで使用したという実績についてはございません。

ただし、話も出てございましたように、東京橋本会、これは11月に会議等が開催されるわけでございますけれども、そういったところには橋本市の産品という形で、お土産という意味合いも込めて繊維関係の商品もお配りしてございます。また、今年の3月、原宿でございました高野口パイルファブリック展では、これも同じく繊維関係の展示会でございますので、ぶわぶわストラップという形で、繊維関係を使ったストラップを、これは無料で配布してきたところでございます。無料配布、ノベルティーとしての活動というのは、以上2件ぐらいかなというふうに考えてございます。

それと、今後でございませけれども、そういった商品を配布するイベント等々、機会を見つけて、今後については前向きに検討していきたいなというふうに考えてございます。イベントではないですけれども、例えば1月には、これは市の行事としての成人式がございませ。来年の1月には、成人式のときに、そういった橋本市での繊維産業のまちだという形での商品もお配りして、PR活動をしていければなというような考え方を今現在でしておるところでございませ。そのほかのイベント等につきましては、関係部局と協議しながら、前向きに取り組んでいけたらなという思いでございませので、ご了解いただきたいと思います。

○議長（井上勝彦君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）ありがとうございます。確かに、いろんなところで地場産品を露出し

ていくというのは、この地域全体にとってもいいことですし、やはり、もうほんま明日もわからんような状況の中で、行政としてできること、もちろん、まずやらんなんのは事業者が進めていくことが中心なんですけれども、やはり市のパンフレットであり、さまざまなところで市の特産品として挙がっているような地場産品については、市も極力露出する機会を増やしていただきたいと、そのように考えております。

また質問なんですけれども、和歌山県では結構海外から来られたお客さまを中心に、そういう再織りのハンカチ等々をお土産として配られることがあると聞いています。もちろん予算規模の違い等もありますので、いきなりこれが当市に当てはまるかというものではないんですけれども、やっぱり当市としても、当市を訪れた地域の方々や、逆に当市から他市へ訪問、県外市外へ訪問される場合、その会合やイベント等で地場産品をPRする機会というのはいっぱいあると思うんです。

そこで、トップセールスという意味合いで、市長がトップセールスという観点から、やっぱり地場産品をPRしてほしいんですけれども、そんなんがありましたら、ちょっと意気込みのほう、お聞かせいただけたらと思います。

○議長（井上勝彦君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）田中議員の再質問にお答えしたいと思います。

トップセールスの問題であります。大変私も気がかりになっておるわけでございますが、国内、あるいは外国へ出ていく機会もあるわけでございまして、そういうときには必ず地元のそういう産品のPRを重点的に行っておることがございます。

平たく言いますと、例えば企業誘致で年間

相当国内行くわけでございますが、そうした話の中で、和歌山県の橋本市と言ったら、白浜のはたですかというようなことを言われるので、そんな津波に遭うようなところと違いますよと。山奥ですよというような、そこから始まって、南海高野線から京奈和自動車道から、いろいろもやもやの話の中で、まず、柿の産地でありますよと。そして、ヘラブナの釣りざおの産地でありますよと。全国95%のシェアを持っておるんだというようなことの中で、あるいはパイル織物の産地のようなことを、まず最初そこらを出していくのが大事でありますので、これは企業誘致だけではございません。そういうことを絶えず心がけておるのが現状でございます。

例えば、柿の問題で、橋本市の農業振興推進協議会というのを立ち上げまして、あれは多分、私が市長就任してから立ち上げたと思うんですが、東京、名古屋、大阪ということで泊り込みで、毎年、今年は名古屋のほうですか、行く予定になっておるんですけども、それが仲買、小売、そういう皆さんと吸い寄せて、そこで旗も立てて、皆大勢いてもうてのPRをやるわけではありますが、そういうこと。あるいは大連への、中国への柿の商品。これはJAが中心になって取り組んでおるわけでございますが、そこへも行ってPRしたこともあるわけであります。

釣りざお、この間から埼玉のほうへ泊り込みで行って来て、東日本の大会、そこでのPRであるとか、お礼も兼ねられないかと思っておりますけれども、そういうこともございます。

特に、この間から、実は橋本市と伊都地方での町長なんかとも一緒に広域観光の協議会というのを設立しておるものですから、そこでいろいろ議論をしまして、ただ単に柿の販売のセールスとか、そういうときに柿だけやなくして、やはりせっかくの機会をとらえて、

PRをしていくということの大切さ、詳しいは言わなくてもいいと思うんです。

そういうことも、やはり観光振興の上で取り組んでいかなければならない。そういうようなことも思っておるわけでありましてけれども、これは市の職員にも絶えず申し上げておるんですが、橋本市というのがどういう、高野山のふもとの橋本市ということでございすけれども、今後、黒河道に関連しまして、世界遺産への追加編入もお願いしたいと思うんですが、そうしたらだんだん充実されてくるわけでありまして、そういうことで多くの産物のPRというものを、やっぱりどんどん前へ出していかなければならない。議員の皆さんも、一つそういう点、もう言わなくても心がけておると思っておりますけれども、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

以上で答弁とかえさせていただきます。

○議長（井上勝彦君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）市長、ありがとうございます。ぜひぜひいろんな場所で、市内の製品のトップセールスという形でPRを行っていただきたい、そのように考えております。もちろん、私たちもそれは一緒にやるべきものでありますし、すべて市任せとかではなくて、これはもう皆でやっていかなんもんやと思っておりますので、ぜひよろしくお願いたします。

続いて、3番目。4番目ちょっと絡んでくるかもしれないんですけども、次の質問に移らせていただきます。

例えばなんですけれども、高野口町商工会の2階、3階や産業文化会館等々、既存の市の施設はいろいろあります。そこを、例えば産業振興センターの役割を持たせたり、配置することは可能なん違うんかなと。これは地域との連携とかもありますし、特に、地場産業の場合に、ここ一箇所にとまっているとい

うのものないですから、どこどこというのは答えにくいかとは思いますが、既存の市の施設を使うことで、箱物の是非はちょっと置いておいて、そのことで所期の目的が達成できるのであれば、すぐにでも動いていける、また考え方、検討にも入れるのではないかと思うんですけれども、そのあたりについてお聞かせください。

○議長（井上勝彦君）経済部長。

○経済部長（浦 彰伸君）ただ今のおただしの、産業振興センターの既存施設を活用しての建設、改築ということでございますけれども、まず、産業振興センターの建設の本来の目的といいますのは、これはご承知のとおり、産業の活性化とか振興にあるというふうに私もは考えてございます。議員ただ今ご指摘のように、既存施設を活用してということでございます。そういった意味合いで、既存施設を活用するという形での役割は、かなり大きなものがあるかというふうに思っております。事業費の削減とか、あるいはまた実現を早めていくという意味合いでは、大きなインパクトになっていくのかなというふうに考えてございますけれども、今現在では、どの場所にとりかかるといって、場所特定で考えておるわけではございません。全く今のところ未定というふうにご理解いただきたいと思います。

ご承知のとおり、取り組み上、これは施設ありきではないよと議員のおただしでもございます。全くそのとおりやと思います。地場産業を中心にしたいろんな団体が結集できる拠点づくりという形で考えてございまして、より多くの団体の意見等も聞かせていただいて、また合意を得た形で取り組んでいく必要があるかというふうに思っております。

若干、取り組みについては遅れ気味ではございますけれども、新たなイベントをつくっていくとか、あるいは産業を活性化するがた

めのいろんな支援をしていくという形に力点を置いて、今まで取り組んできたわけでございますけれども、それにあわせて、今後は地場産業の持つておる課題とか、あるいはまた、今後どういうふうな形で各団体が取り組んでいくのかというような動向等も十分把握した中で、団体の意見を聞く場もつくり、そこでご意見を聞かせていただいた中で、また全体的な日本経済というか、社会全体の動向等々をにらんだ中で、今後取り組んでいく必要があるかというふうに考えてございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（井上勝彦君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）ありがとうございます。ぜひ早く、一日でも早くやっぱり進めていただきたいと思います。というのは、もう今すぐにも地域の企業、産業はほんまにしんどい時期を、時代を迎えている中で、きょうでもあしたでもというぐらい急いでも、やっぱり行政も一緒に取り組んで、もちろん地域も全体で取り組むべき問題ではあるんですけれども、一日でも早く、まず対話なら対話という場を設けていただきたいと思います。大変産業そのものが広いものでありますから、難しいのは重々承知しておるんですけれども、やはり早くやっていただきたいと思います、そのように思います。

続きまして、去年の3月議会なんですけれども、当時の企画部長から、先輩議員が質問された内容の答弁の中で、産業振興センターの部分なんですけれども、「産業振興センターの整備については、今後、関係機関や団体等の意見も聞きながら、既存施設の活用も含め、検討を進めてまいりたい」このように答弁されております。これは去年の3月の議会なんですけれども、そこから約1年たっております。その後、どうなってきたのかなど。どのような検討をされてきたのかというのを、ちょっと教えていただきたいと思いますけれども、

お願いいたします。

○議長（井上勝彦君）企画部長。

○企画部長（森口清隆君）当時、企画部長のほうから、確かに既存施設の活用を含めて検討を進めてまいりますというご答弁をさせていただいております。その方向には変わりはないわけですが、この事業につきましては、議員も先ほどからお話がございますように、まちづくり計画の三つの重点事業という大変重要な位置付けをしております。

それで、これまでの協議は、今の長期総合計画の中におきましては、後年度の計画というような位置付けをさせていただきますので、実際には、具体的に正式な場でこの協議をしたというのはございません。大きな観点から、産業全体の振興という観点からは話はしておりますが、これに限ってということはありません。

ただ、先ほども申しましたように、まちづくり計画の中の位置付けということで、今後、企画のほうと担当部署のほうで十分協議をしてみたいと、このように考えております。

○議長（井上勝彦君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）ありがとうございます。確かに、再質問の答弁のほうでも、後期の計画のほうにはきっちりと盛り込んでいただけるというふうにお伺いしておりますので、ぜひ、ただ長期総合計画が夢物語で終わらぬよう、やはり本来であれば、これは市の計画そのものすべてがそうかもしれないんですけども、やっぱり年次計画というのが必要になってくるのではないかと思います。目標があって、それに向けてどのように進んでいくかというのは絶対大事だと思います。そうしていかないと、どうしても遅れがちになってきたりというのがあるかと思いますし、長期総合計画も、これ、皆、結構市民の方も見ていただいていると思います。やっぱりその中に

載っている事業というのは、市民の皆さんにとっても、そんなんができたらいいいというのもありますでしょうし、期待されているかと思うんです。その途中経過であったりというのも報告する必要があるかと思えますし、もちろん時代の流れで、その内容が変更とかもあるかもしれないんですけども、そういうのは逐一報告なり、何らかの形で表に出していかなあかんの違うのかなと思っております。

そこで、もう一つ質問をさせていただきたいんですけども、先ほど来、経済部長から答弁いろいろいただきました。ちょっと企画のほうに質問したいんですけども、今後、産業振興そのものを具体化していくために、担当部局とどんな調整をしていくのか。また、それを5年目の見直しに、どない反映させていくのかということをお伺いしたいです。

○議長（井上勝彦君）企画部長。

○企画部長（森口清隆君）この、（仮称）産業振興センターにつきましては、まちづくり計画の中で、議論の中でも単にハード整備にとどまることなくということ、中身を重視して進めていくというような議論がかなりなされたかと思えます。そのようなことも受けまして、先ほど、経済部長の答弁の中にも中身重視というような話がありましたけども、私のほうとしても全くそのとおりでございまして、箱物の箱じゃなくして、その中身、メニュー、この辺を経済部のほうと十分詰めていきたいと、このように考えております。

○議長（井上勝彦君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）ありがとうございます。確かに、ぜひぜひほんまに、これはもう早く進めていっていただきたいですし、来年5年目、それになります。長期総合計画も、もしかしたら10年目に何らかの形になるかのように密に連絡をとって、もちろん企画は企画するだけとかじゃなくて、やっぱりこれは庁内

全部の連携があつてはじめてすべてのことが目標に進んでいくことだと思っておりますので、ちょっとしんどい内容ではあるかと思うんですけども、ぜひ形になるように進めていっていただきたい。長期総合計画が夢で終わらない、これに向かって進んでいくという形をつくっていただきたい、そのように思っております。

これで一つ目の質問を終わらせていただきます。次、二つ目の答弁をお願いいたします。

○議長（井上勝彦君）次に、質問項目2、イベント情報の携帯メール配信に関する質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（森口清隆君）登壇〕

○企画部長（森口清隆君）次に、イベント情報の携帯メール配信についてお答えをいたします。

現在、市が行っているメール配信サービスは、防災はしもとメール配信サービスで、配信サービスの登録者には、気象情報、防災情報、不審者情報、緊急を要する行政情報などを発信しています。

イベント情報についてはメール配信をしていますが、広報はしもと、市ホームページで情報発信をしています。6月1日から運用を開始しました、県内初となるフェイスブックでも発信していくこととしています。

また、現在、来年4月稼働予定で市ホームページの更新事業に着手しております、これまでのパソコン用のホームページに加え、携帯電話やスマートフォンに対応したページも作成する予定です。さらに、これらのページには、ホームページの更新内容の要約などを見出しとともに知らせるRSSという仕組みを導入する予定でございます。この仕組みを使って新着情報などの情報を、パソコン利用者だけでなく携帯電話などの端末利用者に

も知らせていきたいと考えています。メール配信システムとは異なりますが、ホームページ閲覧数の増加が見込まれ、情報の普及についてはメール配信サービスと同様の効果が期待できるものと考えています。

しかしながら、議員ご指摘のように、メールという非常に使用頻度が高いサービスを使い、情報を発信していくメリットも確かにございます。したがって、現時点ではイベント情報のメール配信サービスを導入する予定はございませんが、市が行っている情報発信ツール及び来年度から始まる新しい市ホームページの機能と並行して、メール配信サービスの導入について調査研究してまいりたいと、このように考えております。

○議長（井上勝彦君）15番 田中君、再質問ありますか。

15番 田中君。

○15番（田中博晃君）ありがとうございます。他市でも防災メールのシステムをそのまま利用しているみたいなんですけれども、イベント情報であったり、特に、図書館の読み聞かせのことは紀の川市でもよく聞くんですけれども、それは何かというたら、目的がただ、ちょうどこの庁内に何らかの形で来ているときに図書館の読み聞かせのメールが流れてきたと。だから、そのついでにはなるんですけれども、それを寄ってみるということで、実際に行政の参加といいましょうか、市役所そのものが身近になってきて、ちょうど来ておったからそこへ寄ってみよう、メールがあったから寄ってみようというものあるかと聞いております。絵本の読み聞かせ、図書館で橋本市もされておりますけれども、たしか現在、ホームページと広報と、あとちょっと張ってあるだけかな、関係先に張ってあるだけで、その目的に、目についた人しか見れないというのがあるかと思うんですけれども、教育次

長、もし答えられたらありがたいんですけども、図書館の例えば読み聞かせとかというのが、メールの配信とかであったらええなとかというのは思いませんか。

○議長（井上勝彦君）教育次長。

○教育次長（山本芳弘君）先ほど企画部長のほうから答弁させていただきましたように、市としての方向性、検討していくという形の中で、図書館の読み聞かせ等につきましても、今議員おっしゃいましたように、広報とか掲示とか、そういう形で啓発関係をやっているところですけども、そういう形で今後実施されれば、そのメール配信等も含めて、一人でも多くの方に利用していただけるということも期待できるというふうには考えております。

○議長（井上勝彦君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）むちゃ振りしてすいませんでした。というのは、やっぱり携帯用のホームページであっても、そのホームページを見るという目的がなかったら、なかなかそこへたどり着けないという現状があります。先ほど企画部長の答弁にもあったんですけども、メールの場合は、登録していただければ、現在、たしか防災メールでも1,800件を超える登録数があると聞いておるんですけども、それらをうまく利用してつくっていったら、なかなか携帯からホームページを見ていただくというのは正直難しいところもあるかと思いますので、やっぱりメールの配信で市行政への参加を広げていく。それがやっぱり市民参加につながっていくかと思うんです。ですから、今後検討していただけるということで、また、メールについても調査研究をしていただけるというふうに聞いておりますので、ぜひこれはどんどん調査研究していただいて、市民の皆さまにどんだん市のイベント等に参加していただいて、それが行政への参加につながると思っておりますの

で、よろしく願いいたします。

続いて、3番目の答弁のほう、お願いいたします。

○議長（井上勝彦君）次に、質問項目3、図書館の蔵書充実に関する質問に対する答弁を求めます。

教育次長。

〔教育次長（山本芳弘君）登壇〕

○教育次長（山本芳弘君）蔵書目標数についてお答えいたします。昨年度リニューアルいたしました教育文化会館5階の図書館で、現在の蔵書回転率及び貸出密度などのサービス数値をもとにしまして、目標数値は13万5,000冊を設定しております。

また、図書館資料の購入計画につきましては、利用者の要求にこたえていく要求基準の方法と、図書の価値基準を選択する方法との両面から購入計画を立てております。具体的に申し上げますと、利用者からの購入希望によるリクエストサービスの実施と日本十進分類法に基づく分野別蔵書回転率の向上を目標として、内容が古くなった図書を新しい情報の図書に入れ替えます。

次に、雑誌に関しましては、本年度予算で10タイトルほどの増加を見込んでおります。昨年度の35タイトルから、本年度は45タイトルとなる予定で進めさせていただいており、図書館を利用される方々に、今まで以上のサービスが提供できるよう努めてまいりたいと考えております。

○議長（井上勝彦君）15番 田中君、再質問ありますか。

15番 田中君。

○15番（田中博晃君）答弁ありがとうございました。ちょっと紹介させていただきますと、岩出市が、図書館の利用数なんですけれども、平日で1日500人程度、土日、祝日になりますと1,000人を軽く超えるというふうに教えて

いただきました。

その中で、雑誌のことについて、ちょっとお話させていただきますと、雑誌というのは確かにぱっと見た場合というのかな、感覚的なものでいきますと、もしかしたら個人が買うものかもしれないというふうにもあります。しかしながら、内容にもよるかとは思いますが、すけれども、雑誌というのは、そのとき出たからそれが新しいというんじゃないんです。今欲しい情報、そのとき欲しい情報が、もしかしたらそれがバックナンバーに載っているのかもしれないというのもあって、この雑誌の蔵書数、購入数を増やしていくことは、必ず図書館の利用者増につながるんです。

これもちょっと教えていただいた話なんですけれども、子どもを産んだばかりのお母さん方が、例えば子育て雑誌等を、それがバックナンバーだったらいいんですけれども、それを見に行くことで、そこで同じような子どもを持つ保護者同士が交流ができて、新しいコミュニティが作成されていく、そのようなことが多々あると聞いております。

ですから、雑誌という言葉にしてみたら、そんな自分で買うたらええやんというふうにもなってくるかと思うんですけれども、雑誌のほうの購入というのはすごい大事なので、予算も消耗品費、ちょろっと増えておりましたので、ぜひ購入目標に沿うように、これは先ほどの13万5,000冊というのは、たしか現在、もう約13万冊程度蔵書があるかと思うんですけれども、その廃棄していく分もあるかと思うんですけれども、それは13万5,000冊というのは、あそこに入るマックスになってくるのでしょうか。

○議長（井上勝彦君）教育次長。

○教育次長（山本芳弘君）今回、昨年からリニューアルいたしまして、あそこの図書館の、現実的にはだいたい13万5,000冊が限界とい

う形になってまいります。

○議長（井上勝彦君）15番 田中君。

○15番（田中博晃君）ありがとうございます。やっぱり市民一人当たりの蔵書数というのは、さほど多くない。近隣他市と比べても多くない。そのように思います。たしか、去年下でされているときというんですか、仮オープン、仮図書館のときは、結構市役所に来られた方がふっと足を踏み入れていったというか、図書館に行く目的はなかったけども図書館に来た人が、結構多かったというふうにも聞いておりますので、やはり、一番最初の、また長期総合計画のあれに戻っても具合悪いんですけども、図書館の位置付けについても考えていっていただきたいと思ひますし、蔵書も増やしていただきたいと思ひます。

それで、これは私が勝手に思っているだけかもしれないんですけれども、図書館全体を通じて、やっぱり今の一番の問題というのは、館長がいてないことになってくるん違うのかなと思うんですけれども、やっぱり早急に図書館長も早くつけていただきたいですし、それがあることで、今後の方針というのも固まってくるかと思うんです。ですから、ここはちょっと要望になるんですけれども、早急に図書館長も入れていただいて、さらなる図書館の充実を図っていただきたい。そのように思っております。

以上で終わらせていただきます。

○議長（井上勝彦君）15番 田中君の一般質問は終わりました。